死後2週間以上たった男性(72)宅のドアは、異臭が漏れないように粘着テープで目張りされていた（神奈川県相模原市で）

孤独死 悲しき遺品

盛り塩で清めた玄関先に供えられた花束と缶ビール。神奈川県相模原市で、一人暮らしの男性(72)が孤独死した。部屋にはTシャツが干されたまま。発見時には死後10日がたち、ソファには男性の倒れていた痕跡が残っていた。

一人暮らしのお年寄りなどが亡くなった後、遺族に代わって家財の処分と部屋の清掃をする「遺品整理」サービスを行う業者が増えている。全国に100を超える業者がいるとされ、料金は部屋の広さなどによって異なるが、平均30万円程度。

遺品整理専門会社の草分け的存在の「キーパーズ」（愛知県刈谷市）では、年間2000件の依頼がある。そのうち9割が一人で暮らしていた中高年世帯の遺族。半数は孤独死だ。「時間がない」「遺族も高齢で片づけられない」「異臭がする」など依頼の理由は様々。中には生前予約や相談も舞い込む。引き取った家財のうち貴重品は遺族に返し、一部はリサイクルに回して処分する。

立ち会いを拒み、鍵だけ渡して立ち去る依頼人。死後何か月もたって発見された腐乱死体。多くの悲惨な現場に立ち会い、「家族のきずなや地域社会とのつながりの大切さを痛感した」と吉田太一社長(44)。葬儀や財産分与の希望だけでなく、思い出に残る友人や出来事など自分史を書くことで「自発的に誰かと接触する気持ちを持ってくれれば」と願い、「エンディングノート」という遺書のひな型をブログを通して配布している。

全国には65歳以上の高齢者の一人暮らしの世帯は432万世帯。孤独死は、誰にも看取られずひっそりと……と思われがちだが、誰かが世話をしなければならない現実を遺品整理に見た。　写真と文　源幸正倫（7月25日～8月29日撮影）

孤独死した男性(54)の部屋で殺虫剤をまく作業員。「リストラや熟年離婚を恥じて閉じこもる団塊世代も多い。周囲もまだ元気だからと気にとめないことがさらに孤立を深めているのでは」と吉田社長は話す（川崎市で）

2か月に1度行われる遺品の合同供養。遺影などのアルバム、仏壇、布団などがうずたかく祭壇を取り囲む中、僧侶の読経が流れる（東京・大田区の「キーパーズ」東京支店で、画像を一部修整しました）

「父と世間話をして帰ったその日に亡くなってしまって……」と遺族の娘。気持ちの整理もついて「ようやく家に入って手を合わせることができました」（相模原市で）

ズームアップ

毎週水曜日掲載

ヨミウリ・オンラインのズームアップはhttp://www.yomiuri.co.jp/zoomup/